

よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

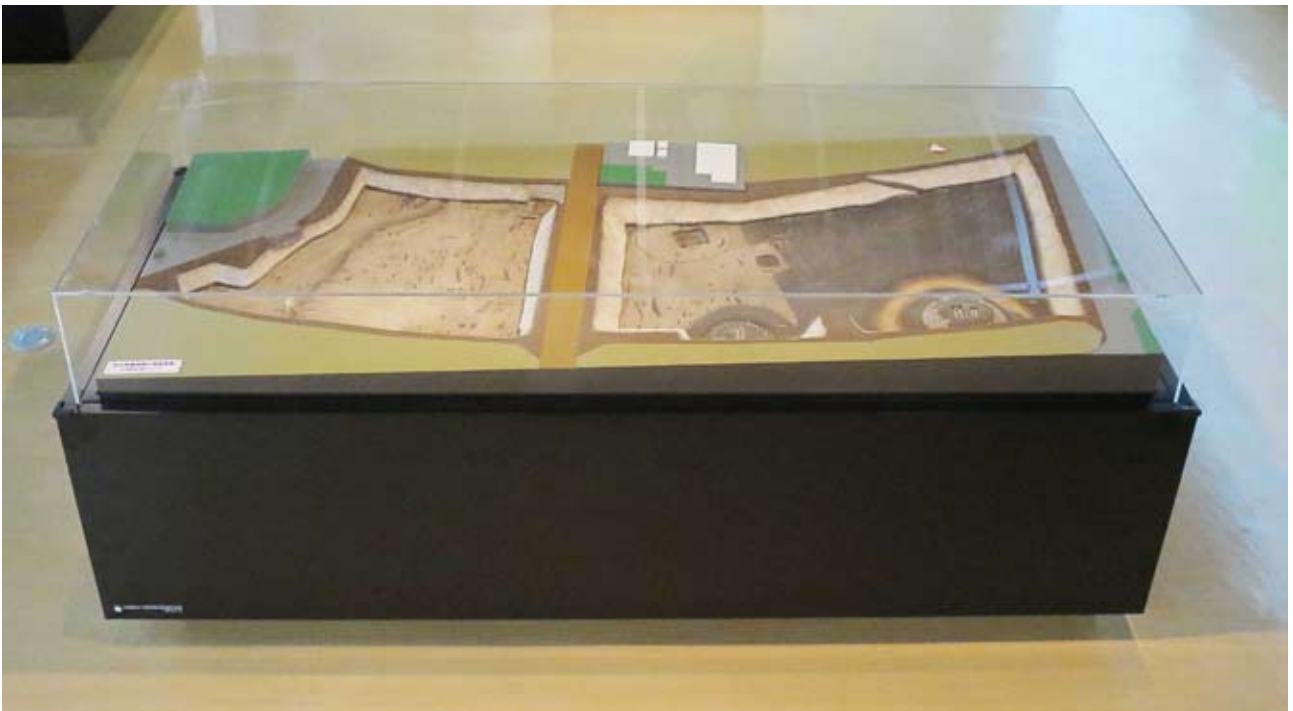
世紀の発見!! 金井東裏遺跡の立体模型 (ジオラマ) 完成

平成 24 年 9 月から始まった金井東裏遺跡の発掘調査が、平成 26 年 5 月末、ほぼ終了しました。特に「甲を着た古墳人」や祭祀遺構などの重要な遺構が発見された 4 区と 9 区は、「群馬の宝」として、「甲を着た古墳人」が生活していた面の保存が決定されました。

この発掘の結果、今から 1500 年前の榛名山噴火に伴う火山灰や火砕流の下から、古墳時代の年齢・性別を異にした 4 人の骨と、多くの人々が火山灰の上を歩いた足跡、そして、ムラの様子を示す様々な遺構や遺物が発見されました。

4 区と 9 区の調査は同時に進めることができなかつたため、「甲を着た古墳人」が活動した面を一度に見ることはできませんでした。また、遺跡は発掘が終わると埋め戻されて見るができなくなるので、調査当時の状況をそのまま残したいと考えました。そこで、保存が決まった 4 区と 9 区について、重要な遺構・遺物が発見された状態全体を再現した立体模型を制作して、発掘情報館で見いただくことにしました。

模型の縮尺は 1/75 で、縦 2.13 m、横 0.97 m、高さ 0.84 m とコンパクトですが、細かなところまで忠実に表現されています。1500 年前に起こったドラマを思い浮かべながら、じっくりとご覧下さい。



発掘情報館で公開されている金井東裏遺跡立体模型 (ジオラマ)

模型のベースは、細かな凹凸の削り出しに適している「ケミカルウッド」という素材を使いました。等高線のデータを使って模型全体を3軸切削機という機械で削ってつくり、細かな凹凸は人の手で写真を見ながら削りました。これで、遺跡の地形や傾斜、一つ一つの遺構の形を再現することができました。



次に、火山灰や火砕流の粒度や色に留意して、火山灰で覆われた古墳時代の地面の色を塗りました。土層断面にあらわれた遺跡を覆う軽石の質感もリアルにつくりました。火山灰を踏み込み、火砕流で埋まった人の足跡や馬の蹄跡は、色違いの細かなスタンプで表現しました。



模型本体とは別に「甲を着た古墳人」や2号甲、祭祀跡から出土した土器、赤玉などの遺物も、一つ一つ細かく作り、最後に模型の中に配置していきました。遺構のネームプレートも置いて模型が完成しました。

遺跡は今埋め戻されて、再び公開・活用されるのを待っています。それまでの間、しばし、この模型で金井東裏遺跡のことを学びませんか？

